

『親の力』をまなびあう学習プログラム  
中学・高校生などの青少年に対応した新規教材について  
～多様な場での活用法～

広島県立生涯学習センター  
社会教育主事 里本佳子

## 調査研究の概要

本調査研究は、平成 27 年度に開発した中学・高校生などの青少年に対応した新しい教材を多くの学校等で活用してもらうための方策について検討することを目的としている。

平成 20 年度から、広島県では「家庭教育支援」のツールとして『親の力』をまなびあう学習プログラム（以下「親プロ」という。）ワークシート（教材）の開発と普及により講座が全県で展開され、各市町において学びの輪が広がっている。近年では、主に保護者を対象とした教材の開発を行ってきたところである。しかし、平成 26 年度に行った調査から、「親になる前に子育て体験がある人は 3 割であり、この体験がある人ほど子育ての悩みや苦手意識が少ない」という結果が明らかになった。このことを踏まえ、今年度は、学識経験者、有識者からなる懇談会を設置し、開発に当たって意見をいただきながら、中学・高校生などの青少年に対応したワークシートの開発を行った。既に、広島県では中学・高校生などの青少年を対象とした教材を 4 種類（アレンジ版を含む。）開発しており、それらの内容は、「妊娠について考える」、「親への感謝の気持ちをもつことについて考える」などとなっている。しかし、これらの教材の開発後、7 年程度経過し、例えば「子育ては家族だけで行うものではなく、社会あるいは地域全体で行うもの」という考え方も生まれている。こうしたことを踏まえ、社会の状況変化に対応した内容の教材を開発することとした。また、この教材の開発に当たっては、「中学校や高等学校等でも活用できるもの」という視点で考察を行い、その中で得られた知見を現在既にある教材の活用にも生かしていくこととした。

実際にこの教材を活用してもらう際には、まず、どんな場面で活用すると効果的なのかを生徒を指導する側の方に理解してもらう必要がある。この教材のねらいを踏まえて、「いつ、どこで、だれを対象に、どのように」進行していくか、教育課程のどの部分に関連づけられるかなどの綿密な打ち合わせが必要となる。試行段階での生徒たちの学習後の感想は、約 9 割の生徒が肯定的にとらえている。参加型学習により自分の幼い頃を思い出し、将来親になるかもしれないという立場を考え、社会の一員として生きていくことについて考えることは、生徒たちにとって有意義な時間となったようである。今後、この新規開発教材を市町の家庭教育担当課の理解を得て学校や社会教育施設等で活用していただくよう働き掛けを行い、中学・高校生などの青少年の学びの輪が広がることで、市町の家庭教育支援事業が活性化され、その効果が更に県内全域に浸透していくことが期待できると考える。

## 調査研究の構成

- 1 中学・高校生など将来親になる世代に対応した教材開発の経緯
- 2 中学・高校生など将来親になる世代に対応した教実施の現状と課題
- 3 今後の具体的な活用について
- 4 多様な場面での活用について
- 5 参考文献

「『親の力』をまなびあう学習プログラム」  
中学・高校生などの青少年に  
対応した教材について  
～多様な場での活用法～

広島県立生涯学習センター  
社会教育主事 里本 佳子



研究の目的



中学・高校生などの青少年に対応した参加体験型のプログラムの取組の現状と課題、新規教材の開発の在り方について調査研究を行い、このプログラムの在り方と多様な場での活用法について考察し、家庭教育支援として普及させていく方向性を見出すことを目的とする。



## 目次

- 1 中学・高校生などの青少年に対応した教材開発の経緯
- 2 中学・高校生などの青少年に対応した教材実施の現状
- 3 具体的な活用について
- 4 多様な場での活用について
- 5 参考文献

## 1 中学・高校生などの青少年に対応した教材開発の経緯

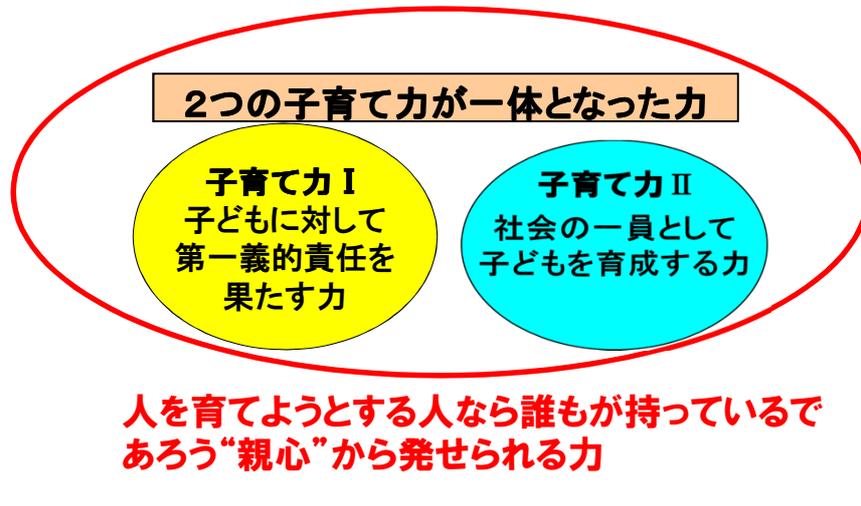
### (1)「親プロ」の概要

- ・親の親としての“育ち”を支援する
- ・「親学習プログラム」が注目
- ・先行的に主に欧米を中心に開発・実施
- ・日本向けにアレンジされて導入

**【例】 Nobody's Perfectプログラム**  
(完璧な親なんていない)【カナダ】  
Positive Parenting Program  
(トリプルP) 【オーストラリア】

# 1 中学・高校生などの青少年に対応した教材開発の経緯

(2)このプログラムでいう「親の力」とは・・・



# 1 中学・高校生などの青少年に対応した教材開発の経緯

(3)子育ての四段階

段 階	対 象
子育て準備期	中学・高校生など青少年, まもなく親になる人
子育て前期	0歳児の親～小学校3年生の親
子育て後期	小学校4～6年生, 中学・高校生の親
子育て支援期	中高年など子育て支援者

学習のすすめ方



ワークシート(教材)



# 1 中学・高校生などの青少年に対応した教材開発の経緯

## (4) 学習形態

奇って、話して、自ら気づく「参加型」

講演を聴くなどの従来の「講義型」の学習方法



参加者が“学びの主体”となる「参加型」の学習方法

子育てを振り返り学びあう中で、親が「自ら気づき」「自ら学べる」力を！

★このプログラムに「正解」はありません。

うちとける



簡単なゲームを通じてリラックスした雰囲気に。

話し合う



思いや意見をグループで出し合い、考えを広げます。

気づく



話し合いをふりかえり、「気づき」が生まれます。

# 1 中学・高校生などの青少年に対応した教材開発の経緯

- ・ 現在既にある4種類の教材の内容は、「妊娠について考える」、「親のありがたみについて考える」などとなっている。
- ・ 平成26年度に行った調査から、「親になる前に子育て体験がある人は3割であり、この体験がある人ほど子育ての悩みや苦手意識が少ない」という結果が明らかになった。プログラム開発後、7年程度経過し、社会の状況変化に対応できる内容の教材を開発する必要性が出てきた。

## 2 中学・高校生などの青少年に対応した教材プログラム実施の現状

### (1) 中学・高校生向けプログラム

「親の力」をまなびあう学習プログラム～寄って、話して、自ら気づく～  
全体のわらいく自由の子育てを振り返り学び合うなかで、親が「自ら気づき」「自らまなべる」力を高める。

段階 <ねらい>	対象 <ねらい>	教材番号	教材のタイトル <ねらい>
【プログラム一覧表】  「自分の親は将来の自分」期 (子育て準備期) <small>&lt;自分の親子関係を振り返ったり、親となる自分を想像することで、これからの自分の生き方を考える。&gt;</small>	「親はウルサイけどアリガトウ」 親の立場を想像しこれまでの自分を振り返ることで、これから親となるであろう自分の生き方を考える。>	1	<b>おぎやーってスゴイ!</b> <卵を自分の子どもに見立て、命の大切さと、親として命に関わることの責任の重さを実感する。>
		2	<b>親しらず 子しらず</b> ～親子関係を振り返る～ <自分の親子関係を振り返り、親の役割や気持ちについて考える。>
		3	<b>おや! おや?</b> ～自分のあゆみと親のかかわり～ <「自分史」を作るなかで親との関係を振り返り、将来どんな親になりたいかを考える。>
		4	<b>親になるって!?</b> ～命を授かる責任と喜び～ <子どものいる生活を想像し、親になる心構えを持つ。>
		5	<b>妊娠期のカラダとココロ</b> ～パートナーの理解と協力～ <妊娠期の女性の体と心の変化を理解し、男女の相互理解と支え合いの大切さを考える。>
		6	<b>出産は初めの一歩!</b> <これから始まる子育て生活への心構えや態勢づくりについて考える。>

## 2 中学・高校生などの青少年に対応したプログラム実施の現状

### (2) 実施数(広島県立河内高等学校の場合)

年度	月	日	実施場所	実施者	実施人数	実施回数	実施内容					
24	7月	1日	三ツ城コミュニティハウス	大学生と地域の方	10	24	中々実施					
								25	1日	保護者6人と2年生普通科生徒56人	1	1
								25	2月	教材:「No26ケータイ!うちではどうする?」 ～考えてみて、我が家流のつき合い方～	1	1
								25	2月26日			
26	10月	30日(木)	東広島市	三ツ城コミュニティハウス	大学生と地域の方	10	24					
		11月1日(土)	東広島市	県立河内高校	県立河内高校	2年生生徒・保護者	62	26	「学校へ行こう週間」の取組としてLHRで実施			
		12月12日(金)	東広島市	県立河内高校	県立河内高校	1年生生徒	76	2	LHRで実施			
		1月27日(火)	三原市	県立総合技術高校	県立総合技術高校	1年生生徒	39	2	「発達と保育」の授業の中で実施			
計					505							

**【実施例】**  
 平成26年 広島県立河内高等学校  
 「学校へ行こう週間」の取組  
 教科:「LHR」  
 対象:保護者6人と2年生普通科生徒56人  
 教材:「No26ケータイ!うちではどうする?」  
 ～考えてみて、我が家流のつき合い方～

【広島県立河内高等学校での感想】

今回の講座で、スマホの事例についていろいろ考える中で、親の気持ちが分かったような気がします。

スマホの使用について、ルールがあった方が良いということが分かりました。家族とのコミュニケーションは大事！



【生徒】



【生徒】



【保護者】

・子供たちの思いや考え方もわかって良かったです。  
 ・子供たちと一緒に参加できて、今までは自分の子だけの意見しか分らなかったのですが、他の子がどのように考えているのか、いろいろな子供の意見が聞けてとても参考になりました。

## 2 中学・高校生プログラム実施の現状

### (3)実施数（広島県立総合技術高等学校）

過去3年間に実施した中学・高校生、大学生を対象とした「親プロ」講座								
年度	期日	市町	実施機関・団体等	場 所	対 象	受講者 人数	教材 番号	備考
24	7							
25	2							実施 「発達と保育」の授業の中で実施
26	11月1日 (土)	東広島市	県立河内高校	県立河内高校	1年生生徒	62	26	「学校へ行こう週間」の取組としてLHRで実施
	12月12日 (金)	東広島市	県立河内高校	県立河内高校	1年生生徒	76	2	LHRで実施
	1月27日 (火)	三原市	県立総合技術高校	県立総合技術高校	1年生生徒	39	2	「発達と保育」の授業の中で実施
計						505		

【実施例】

平成26年度 広島県立総合技術高等学校

教科:「家庭科～発達と保育～」

対象:人間福祉課1年生40人

教材:2 親しらず 子しらず  
 ～親子関係を振り返る～

【広島県立総合技術高等学校での感想】

「子どもは守られる存在なので、守ってあげたいです。」  
「社会に通用するルール・マナーを教えないといけないこともわかりました。」  
「愛情を与えてあげることが大切ということがわかりました」



【生徒】

今日は楽しい雰囲気の中で自分の親子関係を振り返ることができ、よかったですと思います。時にはこういう形態での授業も入れてみようかと思っています。



【担任の先生】

## 2 中学・高校生などの青少年に対応したプログラム実施の現状

### (4) 成果

- 子供の思いや考えを聞くことにより、新たな気づきの発見ができたこと。
- 「親プロ」の形態として、生徒と保護者が同じ会場で講座に参加するという形がとれたこと。
- 生徒と保護者がそれぞれの立場から意見交流を行うことで、お互いの考えを理解し合えたこと。
- 家庭科という教科指導の中でも実施できる内容であることが確認できたこと。

## 2 中学・高校生などの青少年に対応したプログラム実施の現状

### (5) 課題

- 中学・高校生がより興味を持つような内容にしていくこと。
- 中学・高校生は、学校を中心として生活していることから授業時間内で使用できる内容にしていくこと。
- 学校で行う場合は、授業時数の確保の問題や年間計画の中の位置付けについても考慮してもらう必要があること。

## 3 具体的な活用について

### (1) 新規開発教材ワークシート(1P・2P)



「親の立場になって考えてみよう」  
「地域のことを考えよう」  
「(自分の)地域の中での関わりを振り返ろう」  
「地域の中で子供を育てる」を切り口にしてはどうか。

### 3 具体的な活用について

#### (2) 新規開発教材ワークシート(3P・4P)

**ゴール** 読まほしがる

① この物語を参考にしながら、あなた自身が書いた、あなたにとって、教科書の人と一貫して話し合えることが楽しかったことを意識してほしい。

② この物語を参考にしながら、あなた自身が書いた、あなたにとって、教科書の人と一貫して話し合えることが楽しかったことを意識してほしい。

**学習目的** 本が読める物語を通して、**読者の感情**を理解する。

**学習目的** 本が読める物語を通して、**読者の感情**を理解する。

**学習目的** 本が読める物語を通して、**読者の感情**を理解する。

- ・大人の目線ではなく、中学・高校生目線のエピソードにした。
- ・感情を表すことが難しい年齢である中学・高校生にとって、心を開いて話しやすい問いかけにした。

### 3 具体的な活用について

#### (3) 新規開発教材 試行実施一覧

市 町	月 日	時 間	場 所	対 象(受講者数)	ファシリテーター
広島市	1月10日(月)	9:55~11:45(95分)	ステップアップ研修(西郷)	ファシリテーター 37名	地方 遊理子委員 林 幸江委員
三次市	2月2日(水)	1:50~1:55(5分) 【2学期(15分)期間】	広島市立三光中学校 【総合学習の時間】	中学生1・2学年 (54名)	熊本 由徳美委員 行政 智美委員
福山市	2月7日(月)	9:55~11:45(95分)	ステップアップ研修(東郷)	ファシリテーター (8名)	熊本 由徳美委員 行政 智美委員
北広島市	2月8日(火)	14:00~15:30(95分)	県立加計高等学校 五光分校 【ロングホームルーム】	高校生1・2学年全員 43名	行政 智美委員
呉市	2月10日(木)	14:25~15:15(50分)	呉市立尾道中学校 【学級活動】	中学生2学年2学期合同 (44名)	林 幸江委員
広島市	2月14日(月)	9:10~10:00(50分)	広島経済大学 【講義】	大学生 (16名)	地方 遊理子委員
広島市	2月16日(水)	14:20~15:10(50分)	安田女子高等学校 【志願生】	高校生1学年 (44名)	吉玉 福江委員
東広島市	2月17日(木)	9:15~12:10 【110分×2学期】	県立広島市立美穂が丘中学校 【選考】	中学生1学年2学期 (73名)	吉玉 福江委員
府中町	2月16日(水)	9:10~10:20(50分)	萩高府中高学習センターOPのきプラザ	県立安高府中学校2学年 放課後子供教室ボランティア (11名)	市田 珠美委員
広島市	2月20日(日)	14:00~14:30(30分)	広島市青少年センター	教育ボランティア 高校生1~3学年 (6名)	地方 遊理子委員
三次市	1月6日(水)	9:10~10:20(50分)	県立三光高等学校 【生徒会】	高校生1・2学年 (6名)	行政 智美委員
東広島市	2月17日(水)	14:00~15:00(60分)	三ツ屋コミュニティハウス	広島大学3・4年生 放課後子供教室ボランティアメンバー (5名)	吉玉 福江委員

### 3 具体的な活用について

---

#### (4) 活用の機会

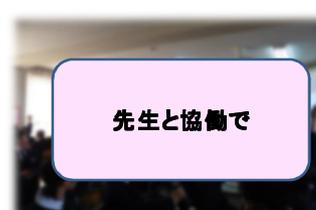
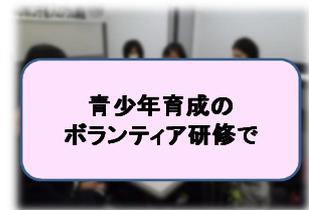
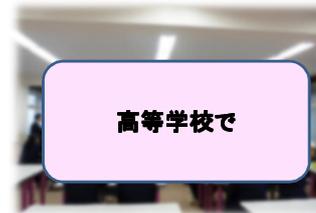
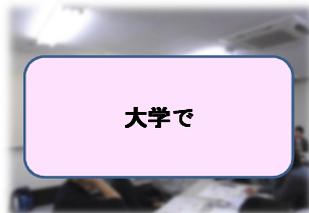
・学校 ・社会教育施設等

【家庭科】(安田女子高等学校 )  
【総合的な学習】(三次市立三次中学校)  
【特別活動】「LHR」  
(呉市立両城中学校)(広島県立加計高等学校芸北分校)  
【道徳】(東広島市立高美が丘中学校)  
【生徒会】(広島県立三次高等学校)  
【広島経済大学】: 大学1年生  
【安芸郡府中町内放課後子供教室ボランティア】  
広島県立安芸府中高等学校生徒(1, 2年)  
【広島市青少年センター内保育ボランティア】  
広島市内高等学校生徒(1~3年)  
【東広島市放課後子供教室ボランティア】  
メイプルみっつ広島大学3, 4年生

### 3 具体的な活用について

---

#### (5) 活用の様子



## 4 多様な場での活用について

### (1) 生徒のアンケートから

Q1 子育てしやすいまちってどんなまち？～みなさんができることは何かな～の内容について理解することができましたか。

Q2 子育てしやすいまちをイメージすることができましたか。

Q3 グループ交流では、楽しく話をすることができましたか。



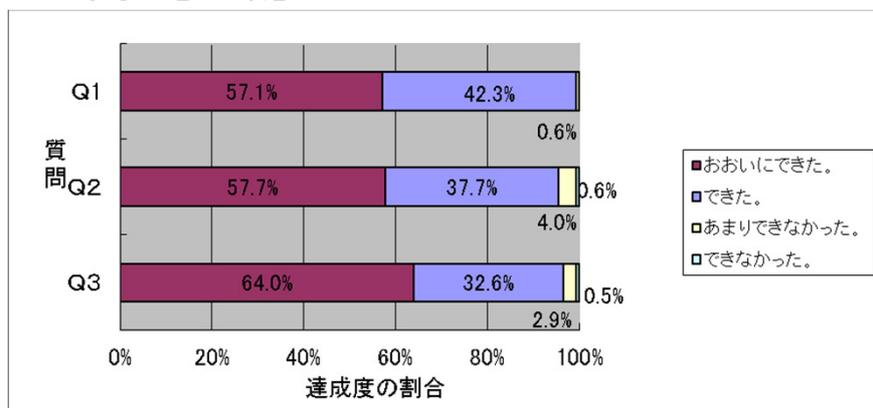
みんなの意見を聞きながら話すことができて、楽しかった。

子育てをする人の立場を考えることができた。

## 4 多様な場での活用について

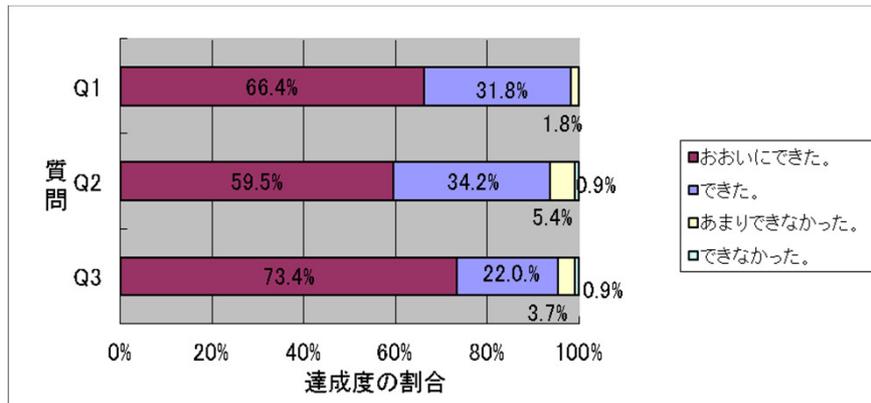
### (1) アンケート結果

中学生【175名】



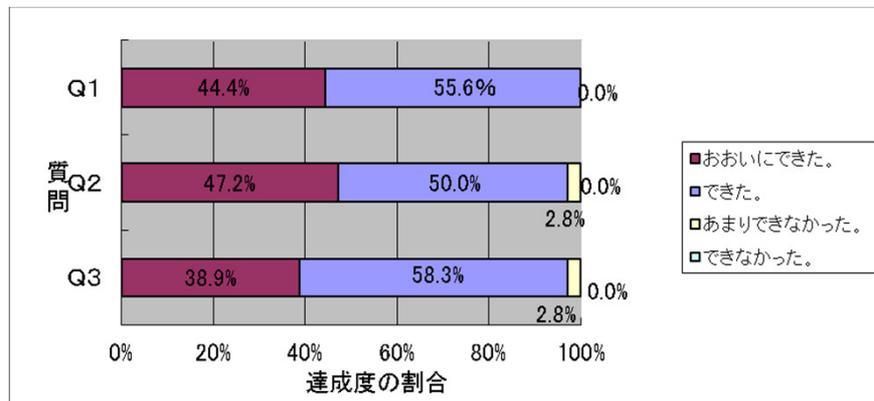
## 4 多様な場での活用について

### 高校生【110名】



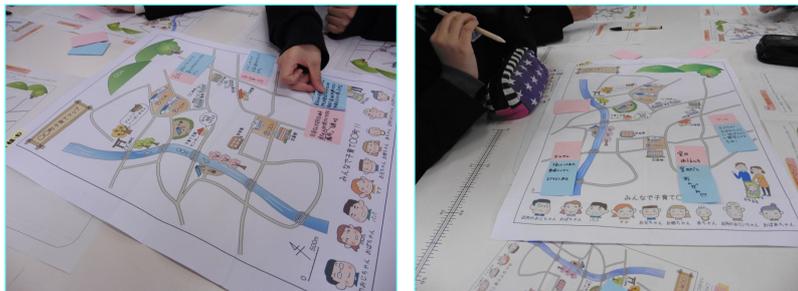
## 4 多様な場での活用について

### 大学生【36名】



## 4 多様な場での活用について

### (2) ファシリテーターの感想から



- ・生徒に子育てのイメージを持ってもらう工夫。  
(写真や子育ての話など)
- ・子供の頃を振り返ってもらう工夫。  
(子供の頃の思い出の話など)

## 4 多様な場での活用について

### (3) 成果

- ・ 地図を参考にして、自分の幼い頃を思い出しながら、自分自身を振り返ることができたこと。
- ・ 生徒同士で話し合いながら、将来自分が子育てをするイメージを持ち、地域みんなで助け合いながら子供たちに関わっていくことが大切であることに気付いてもらうことができたこと。
- ・ 地域を切り口にしたねらいなので、「家庭科」「総合的な学習の時間」「道徳」「特別活動」など、多様な教科で扱ってもらうことができたこと。
- ・ 担当の先生から、『他教科で学習したことを「親プロ」の参加型学習で生かすことができた。また、意見交流の場では普段の学習では見られない生徒の表情を見ることができた』という評価をいただいたこと。

## 4 多様な場での活用について

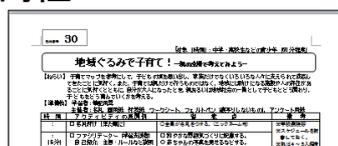
### (4) 課題

- 子育てそのものは大変ではあるが、一方で楽しいものであることに気付いてもらうことが難しかったこと。
- 将来子育てをした時に一人ではなく、地域には子育ての助けになる施設や子育てを助けてくれる人がいるということに気付いてもらうことが難しかったこと。
- 中学・高校生がより興味を持つような内容にしていくこと。
- 中学・高校生は、学校を中心として生活していることから授業時間内で使用できる内容にしていくこと。
- 学校で行う場合は、授業時数の確保の問題や年間計画の中の位置付けについても考慮してもらう必要があること。

## 4 多様な場での活用について

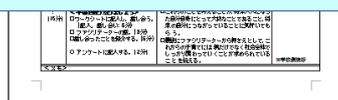
### (5) 活用の方向性

#### 展開例の工夫



・生徒に子育てのイメージを持ってもらう工夫  
(写真や子育ての話など)

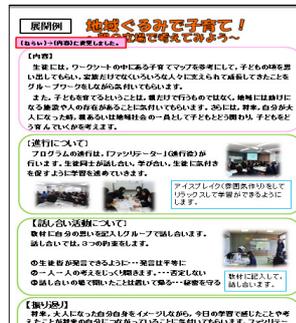
・子供の頃を振り返ってもらう工夫  
(子供の頃の思い出の話など)



## 4 多様な場での活用について



### (6) 広報用リーフレット(案)



地域ぐるみで子育て～親の立場になって～というテーマは、地図を参考にして幼頃の自分を思い出して話をする親しみやすい内容です。

グループワークを通して自己理解、他者理解が深まります。自分の考えが認められることで、自己肯定感が高まります。

## 5 参考文献

- ① 広島県立生涯学習センター研修コンテンツ「ファシリテーター養成講座」
- ② 松田愛子「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を持続可能な取組としていくために～ファシリテーターの果たす役割を中心に～」広島県立生涯学習センター調査研究報告書、平成24年
- ③ 平成27年度第2回「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーターステップアップ研修「現代の中学・高校生の家族に関する学びと子育て観について」講義資料 広島県立教育センター 指導主事 小樹 由美 平成27年9月28日(月)、10月2日(金)
- ④ 中学校学習指導要領 文部科学省
- ⑤ 高等学校学習指導要領 文部科学省
- ⑥ 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 特別活動編 総合的な学習の時間編 文部科学省
- ⑦ 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省
- ⑧ 中学校教科書(開隆堂)
- ⑨ 高等学校教科書(教育図書)(第1市学習社)(東京書籍)(開隆堂)
- ⑩ 国分康孝「エンカウンターで学級が変わる」図書文化2012
- ⑪ 千葉県高等学校教育研究会家庭部会、家庭教育推進委員会「あんころ」教育図書(2014)

# 「親の力」をまなびあう学習プログラム 中学・高校生向け 「地域の中で子供を育てる」



～青少年の主体的な学びを応援します～

広島県教育委員会では、家庭の教育力の向上を目指して、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」(通称「親プロ」)を活用した学習機会の充実に取り組んでいます。このプログラムは、これから親になろうとする若い世代から子育て真っ最中の方、中・高年齢層の方までみんなが寄って、話すという参加型学習で、「まなびあう」ことによって、自らの気づきをさらに伸ばしてほしいという願いが込められています。



## Q1. 学習内容は？

### 【楽しく話し、聞いて納得する 参加型体験学習】

講義を聴くなどの学習方法



生徒が「学びの主体」

生徒が話し合い  
知恵を出し合い、  
お互いに学び合う

自分と親との関係や、自己理解と他者理解や自己肯定感の向上を図ります。

さらには、自分の将来について考えます。



## Q2. 進行は、誰がするの？

### 【養成講座を修了した ファシリテーターが進行】

参加者自らの気づきや学ぶ力を引き出し、皆が平等に発言できるようにします。

ワークシートを使って学習します。当日の進め方については、短時間で事前に先生方と相談しながら授業の流れを決めていきます。

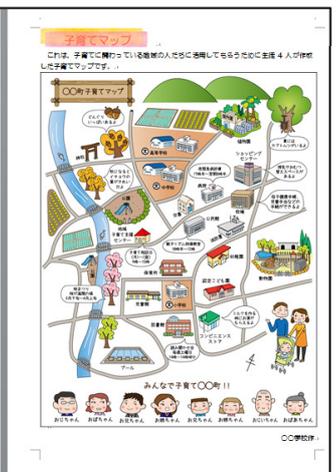


### 【講座を受けた生徒の声】

- 友だちの意見を聞くことができ、自分と同じような考えがあることがわかりました。
- 自分と親との関係を考えることができました。
- これから親になるかもしれないのでその時のことを考えることができました。

### 【講座を実施した教師の声】

- 他教科では見られない生徒の姿を客観的に見ることができました。
- ファシリテーターの進行の仕方が授業に生かせそうでした。



「『親の力』をまなびあう学習プログラム」講座についてのお問い合わせは **今すぐこちらまで！**

広島県立生涯学習センター TEL：082-248-8848

メール：sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp

H P：http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/または各市町の「家庭教育担当課」へお問い合わせください。



## 展開例

# 地域ぐるみで子育て！ ～親の立場で考えてみよう～

### 【内容】

生徒には、ワークシートの中にある子育てマップを参考にして、子どもの頃を思い出してもらい、家族だけでなくいろいろな人々に支えられて成長してきたことをグループワークをしながら気付いてもらいます。

また、子どもを育てるということは、親だけで行うものではなく、地域には助けになる施設や人の存在があることに気付いてもらいます。さらには、将来、自分が大人になった時、親あるいは地域社会の一員として子どもとどう関わり、子どもをどう育てていくかを考えます。

### 【進行について】

プログラムの進行は、「ファシリテーター」(進行役)が行います。生徒同士が話し合い、学び合い、生徒に気づきを促すように学習を進めていきます。



アイスブレイク(雰囲気作り)をしてリラックスして学習ができるようにします。

### 【話し合い活動について】

教材に自分の思いを記入しグループで話し合います。話し合いでは、3つの約束をします。



- ①生徒皆が発言できるように…発言は平等に
- ②一人一人の考えをじっくり聞きます。…否定しない
- ③話し合いの場で聞いたことは置いて帰る…秘密を守る

教材に記入して、話し合います。

### 【振り返り】

将来、大人になった自分自身をイメージしながら、今日の学習で感じたことや考えたことが将来の自分につながっていることに気付いてもらいます。ファシリテーターがこれからの子育てには、親だけでなく社会全体でしっかり関わっていくことが求められていることを伝えます。

